

音読テキスト「日本の名文」15

十一月三日(雨ニモマケズ)

みやざわけんじ
宮澤賢治

行ツテ看病シテヤリ
い かんびょう

西ニツカレタ母アレバ
にし (疲) はは

行ツテソノ稲ノ束ヲ負ヒ
い いね たばをおい

南ニ死ニサウナ人アレバ
みなみ し そうなひと

行ツテコハガラナクテモイイトイヒ
(怖) (言)い

北ニケンクワヤソシヨウガアレバ
きた (喧嘩) (訴訟)

ツマラナイカラヤメロトイヒ
(言)い

ヒデリノトキハナミダヲナガシ
(日照) (時) (涙) (流)

サムサノナツハオロオロアルキ
(寒) (夏) (歩)

ミンナニデクノボートヨバレ
(呼)

ホメラレモセズ
(苦)

クニモサレズ
そういう

サウイフモノニ
そういう

ワタシハナリタイ

雨ニモマケズ
あめ

風ニモマケズ
かぜ

雪ニモ夏ノ暑サニモマケヌ
ゆき なつ あつ

丈夫ナカラダヲモチ
じょうぶ (体)

慾ハナク
よく

決シテ瞋ラズ
けつ いか

イツモシヅカニワラツテキル
(静) (笑)

一日ニ玄米四合ト
いちにち げんまいよんごう

味噌ト少シノ野菜ヲタベ
みそ すこ やさい (食)

アラユルコトヲ

ジブンヲカンジヨウニ入レズニ
(自分) (勘定) (い)

ヨクミキキシワカリ
(見聞) (分)

ソシテワスレズ
(忘)

野原ノ松ノ林ノ蔭ノ
のほら まつ はやしかげ

小サナ萱ブキノ小屋ニキテ
ちい かや こや い

東ニ病氣ノコドモアレバ
ひがし びょうき (子供)

宮澤賢治

「一九三二年の手帳より」

日本の詩の中でももともと有名な詩の一つ(ただし、これが詩として書かれたかどうかははっきりしない)。宮澤賢治は、詩集「春と修羅」作品「銀河鉄道の夜」「風の又三郎」童話「よだかの星」注文の多い料理店などの作者である。熱心な法華経信者として、利他精神の理想を追求した。

生没年、一八九六年〜一九三三年。なお、戦争直後、文中の「一日玄米四合」は多いと、GHQからクレームが入り、「三合」と変更されていた時期があった。

青空文庫を元としています
参考 …ウイキペディア